



繪本琉球軍記

初篇

四



13
3554
4



門 へ 13
號 3554
卷 4



繪本
琉球軍記卷之四
目錄

勝氏定計渡海琉球國

武藏守智計要溪灘運送兵糧

勝氏到琉球首里王城

忠久仁木勝氏拜元帥

繪本流傳

卷四

目

早稲田大學圖書館
昭 33.11.10 受
藏 書

勝氏諸軍定陣列

勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列	勝氏諸軍定陣列
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

繪本琉球軍記初篇 卷之四

勝氏定計渡海琉球

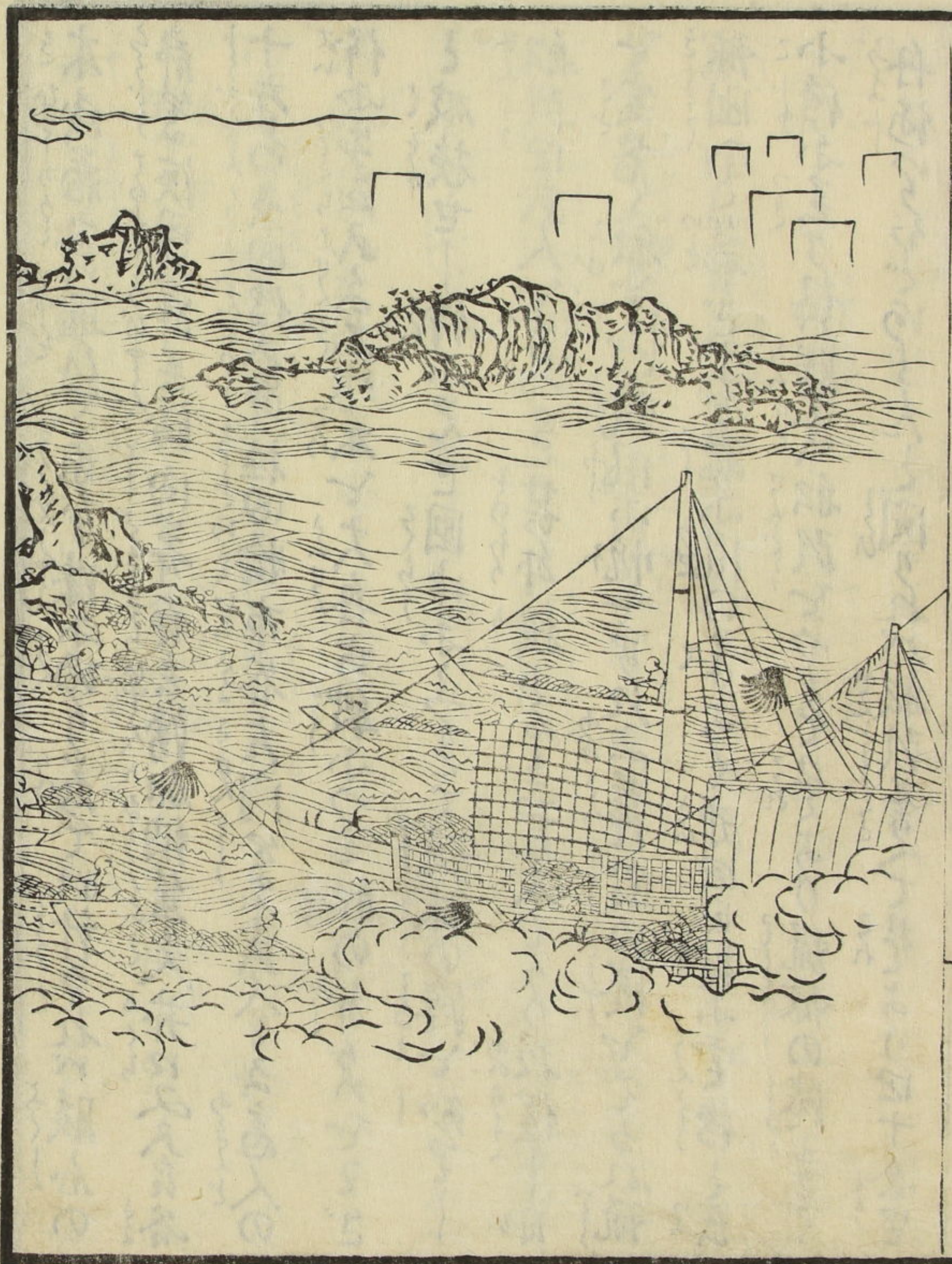
時小仁木武蔭言勝氏言上ごんたか一々中乃るなつか君今某なつかと必かならずく
 惣軍そうぐん此元帥げんすい小命こいのちトいの長元東ながもとを任まかす所ところにあるは
 かかくく辞ことば一ひとややさんさん子こ却かへてて不ふたた小こ似にれればば不ふ敏みんくくららとといいく
 ともとも國家こくが此こゝ洪福こうふくとと改かへふふとといいふふはは君命くんめい此こゝ重おも死しとと并ならひひ此こゝ命いのち
 とと投なげげるる國家こくが此こゝ為なるる忠ちゆうととははくくさんさん某なつか今いま一人ひとりととささめてめて琉
 破軍師はくぐんしととせんせんけけ人ひと智勇ちゆうゆう万人ばんにんふふささぐぐれれ軍ぐん度ど小こ之の臣しんくく兵
 法ほふ不ふ遠とんせせりりけけ人ひととと用もちふふ付ついいふふもも危あやままるる返かへりりけけ人ひとはは是
 尚なほ家け此こゝ食く客かくるる建けん西せい八はち節せつ為なるる知しるる忠ちゆう久く矣やとと多おほくく之のああい

汝がこころを不目と結まざるは人容易小者なりは汝先
 元師として彼國ふりり力とそと功としげよりの強さ
 敵ふい軍難候小及びるばそとたけ人と用むべしと申
 りれば武莊お大い小恨ひ某即日琉球は渡海一彼國のちり
 人物の強弱とあふし二つへの計と用ひ先達て兵糧と要漢健
 送やおくじ其もろもろか申りくとあふ言よしとりられが
 患久大い小かに今ふそとめぬ勝氏が深智稱すふ所あり
 阿皇そと討とけよべし帯刀が言も高備るれば必し
 日救とさるるるれといと嚴ふ命とあふ勝氏強んで
 兼一法將一統小所あて退と各々鎮へゆりたる去をど仁

本武莊おい退いて赤布珠小ゆり着てけ計るれば腹心の
 所等漢田の所を傍由寄右去傍加納隼人井口又入る各
 十左の系因傳入所桂田恰市谷九門等十五人とも高人の
 伴小あまふるれ米と大舟六艘小つと船のあがれとまざ
 と破換せし伴小ふせ國中ふりまて琉球の港と知れし
 船隊に八人と百つと其外揖とせ二百人をくりね僅し日
 と定めて船と出頭風小帆とあれ上薩の港とさるれ琉
 球國へと急ぎしが疎小風のよよく申日日月小雲傳と云
 小傳不急りれば勝氏船隊とやそとそよりの琉球の港とま
 舟海いらどゆくと同りれば船隊着て是より四十余里



勝氏
 智計
 要溪灘
 兵船
 送石
 園

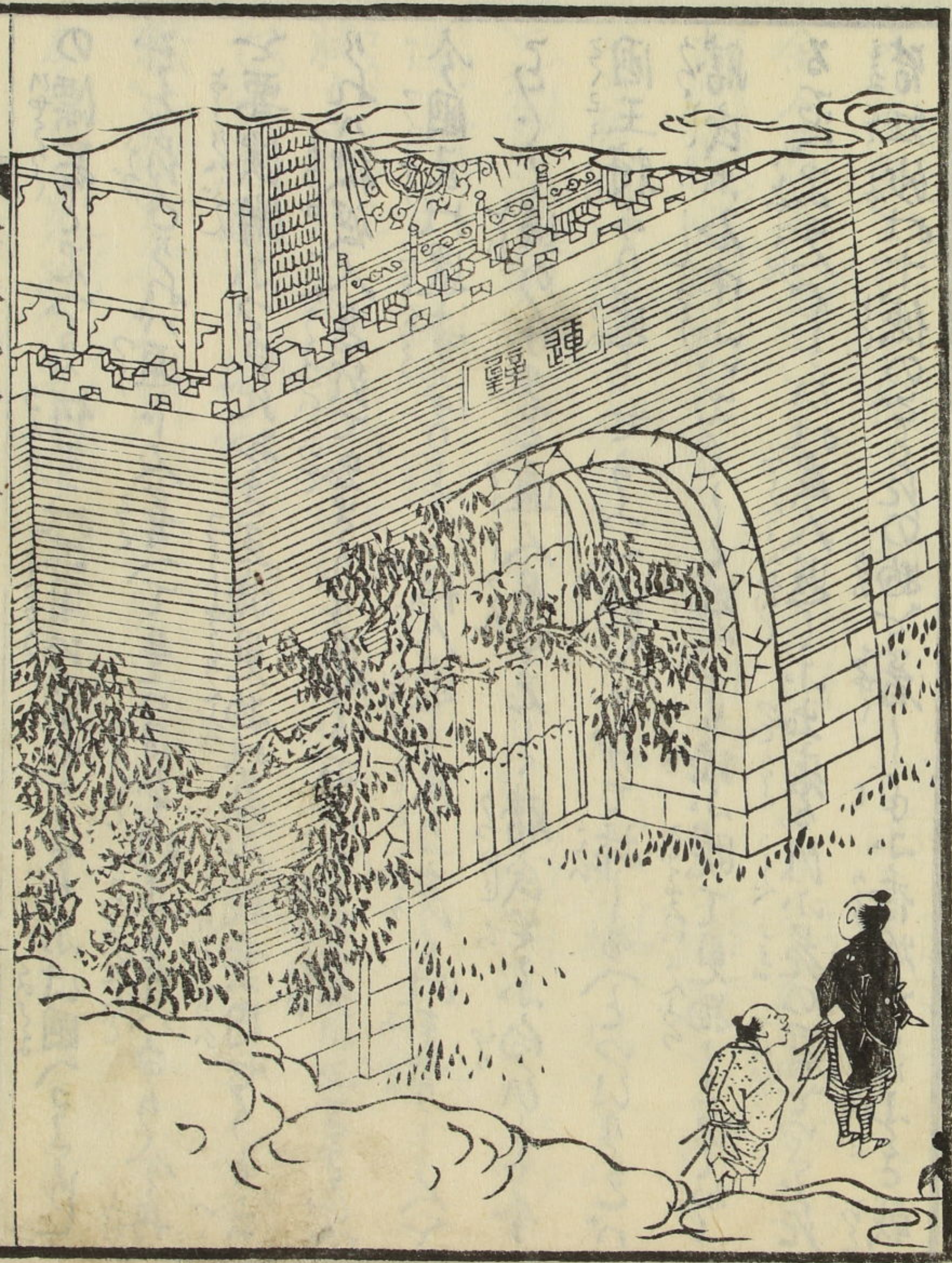


とやせ明日の要候遊不着船仕るべしと云られ勝氏兵
 既てさこそ何しんけ侍も後軍勢發向のとん入用るべし
 とて翌日まゝ船と知りられ案れごとく其日の申付時
 琉球國の大港要溪遊不着船を現ふけ國陸一のみると
 とて大船小舟數千艘連中かやしてそ船一たり葦葉
 のあげとぞぐに勝氏中舟と港つるにわさ良等と引
 て陸へより是の日本此米舟なりはるがく難風ふきひて
 海よふとよひあふけ國ふ未船せしは田邊の知源と
 危喜といふ者ふはへればやと危喜が組下れ役人出まの
 船と何しんけ何しんけ何しんけ何しんけ何しんけ何しんけ

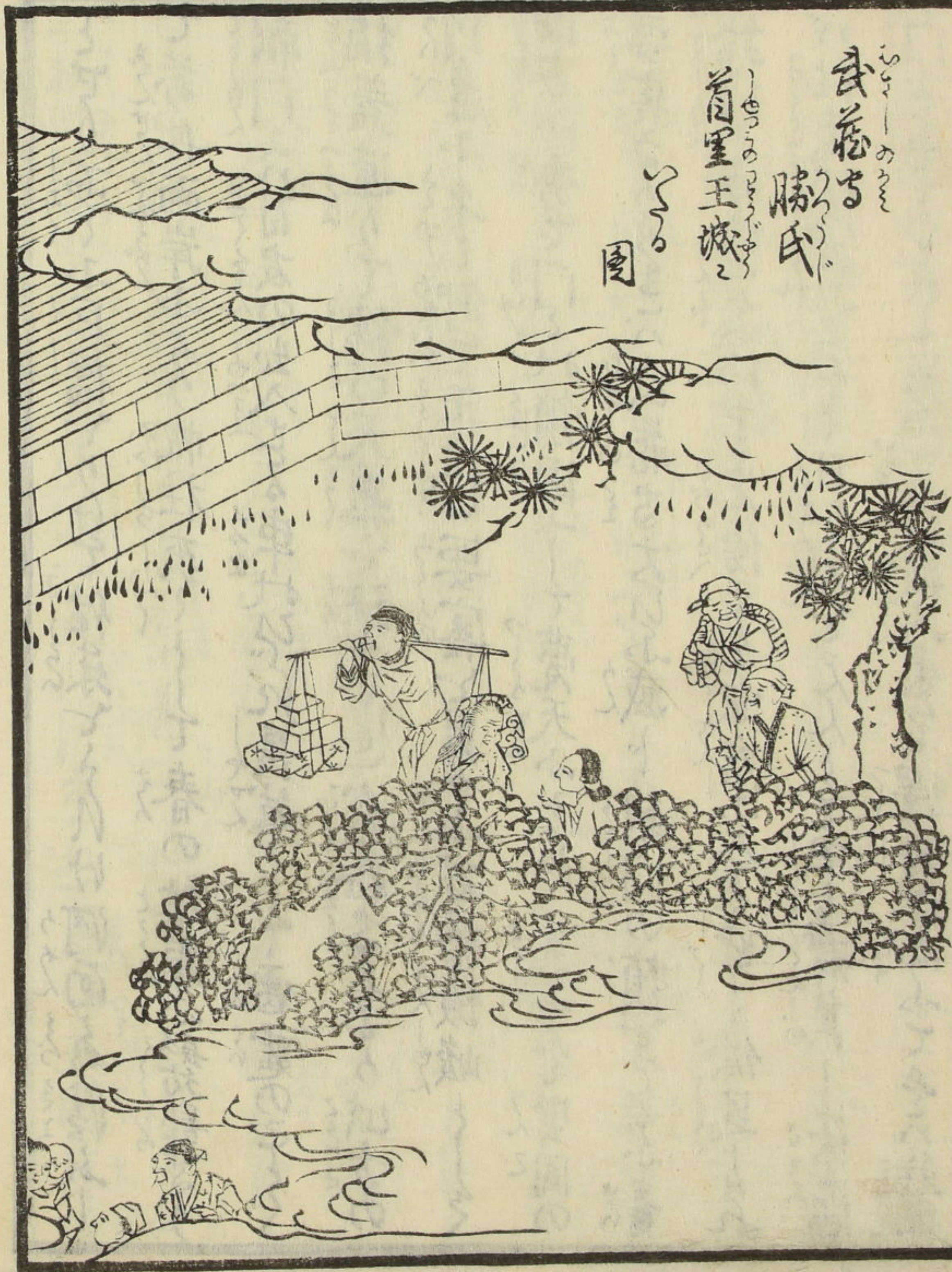
これ勝氏使て赤木の皆中國の者なり九州より米とらひ
 赤木とくんとを難風ふきひ船とぞ換下り船くハ舟
 申れ米と當港小積おき船れ被換と申しとくゆとらげと
 既れれ役人ども是とそと先けよと縣令危喜小浜
 危喜又當港の按司琉球のその城主陳文積言上と令と
 下しとんれお舟と遣使とて許しられ勝氏大いお
 まびりひて船中お召つくる大工お命とせびりり被換
 と毎日く連しとらけひまふ武藏守の諸方と巡見せんと
 又仍て縣令危喜小浜へ致ぐけ國の累色王城の警備
 とも拜見しとくけ後御許容れいなると云られ危喜

くと安とてとてあ遠小洋一りれ勝氏大い小悦び由家
 侯國等此舟等入六人と召つを縣令危意より此附人張
 三とて澤司小素内とたの要漢遊と發足一あり此城下
 と又也と舟六日月小玉城小いりりる莫小京城の警花の
 作小美小一と教方此民家軒とるるへ高貫店とるるて驚
 のの門小とび又匠人の第宅とるる小太とるる小となく
 金珠とび飾りしとせり急馬東小りば終前少と走り
 人煙緩小一と市中大い小籠ひ其警花目と終るるんと
 つとるる武蔵守の舟等引つとるる此町と見りるる
 小朝門の赤小出とりけり可此大河るがれて是と王城の外城

とせり可く小巨橋とりけて佳味とるりけ河面あ清か
 て兼舟兩岸小より帆柱表とて春の杜草小野坊野
 朝門より百友の出入する車れびれ真然とて雷霆のごとく
 須蓋連りて錦の天幕と張がごとく武蔵守をるりけ方の
 川を小イと仰て王城の要害と見る小万櫓儉峻とるる
 四方小秀で門と此鎖固くして覺天小とび一美小を豊國の
 要害るりるま武蔵守大い小感ト朝門の額とるる小音
 龍門といふ二字あり先傍るる兼店小入るる帯一休足一りれ
 佳味人きとるる日女人と人んとて四方群集一兼店の
 門は布とるると見小一人は役人來り澤司小向ふて是の和國

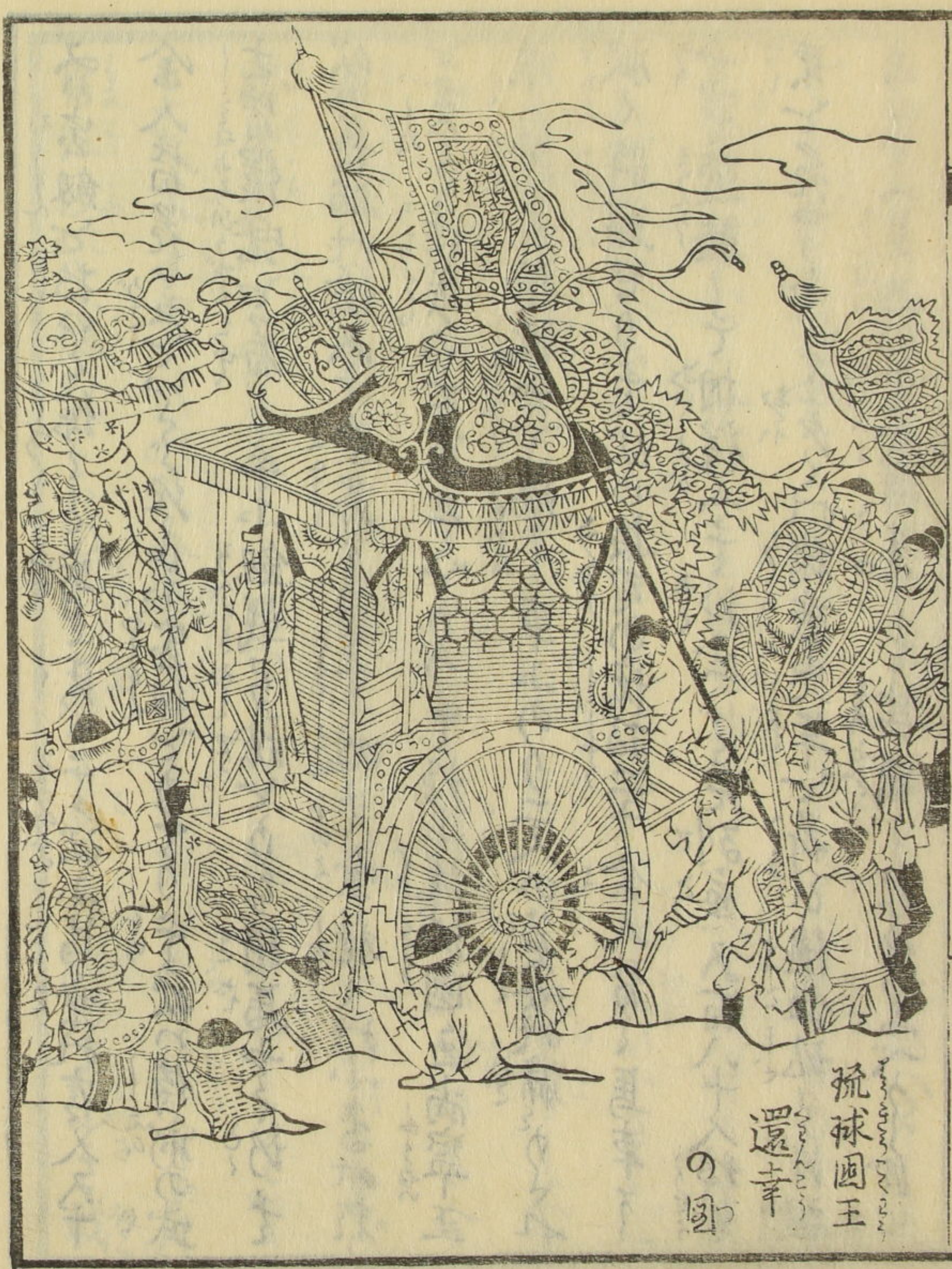
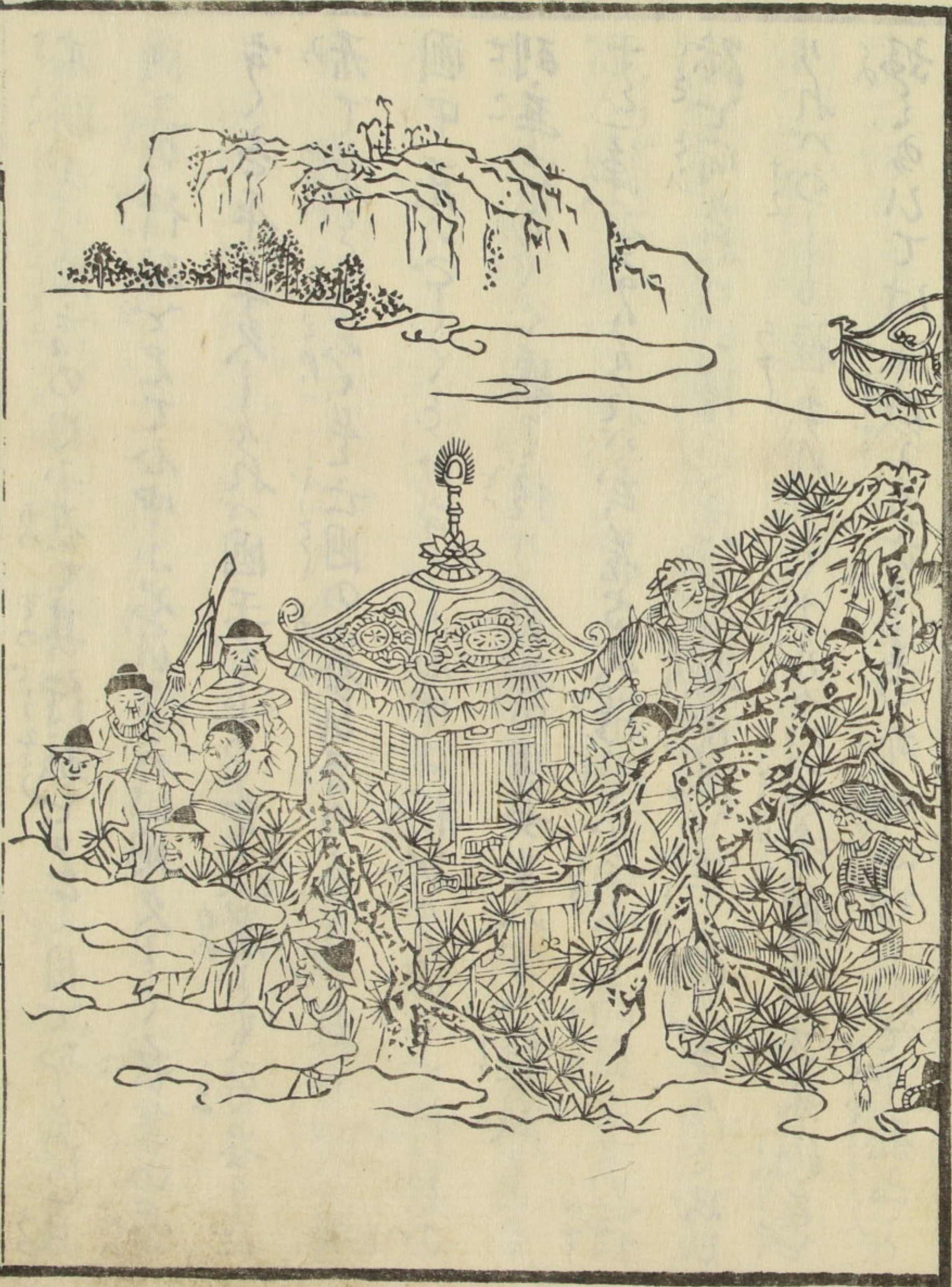


武蔵守
 勝氏
 首里王城
 図



の標客とてへるが何ぞは所用の事とてさへりふけ國へさへり
 ぞと名ひるれば通ト人言へて是の日本に來る人有り今舟
 と要候渡るつるだおまじ城見物にふ我業内せりと云
 りれば彼渡人馬路て出さるりるから市市中大いふささだ
 今國王に還幸ありとて役人退て來りまはれし事あり人々
 多く退のけるを通人はさへ多く晴氏もふ向ひて今
 國王將あり退てせまの晴氏とて捧へてつひはまじ
 晴氏も心申ふいふくくもど城に跪て見物しるさか
 るとてさへさへひは友人退く小島來る既小島の冠とてさ
 皆紅紗の十徳のぞたの物と着し小香炉のりしとて戦

又小室劔と持いと徐くと歩と來るそは小馬乗れ宿人又十
 余人皆花をさといひて死し小室劔とありてりそは侍衛の武
 士皆獲兎と着し手小劔戦弓強とりら騎馬ありてそ
 次ハ長柄槍み十餘筋さへさへ餘種し小島に輕
 と貴人も徒歩の士卒ととりつては琉球國を尙平王
 障の澄金銀珠玉と獲し車小のり二人の美女は膝のりれ
 候く睥睨せりそは按司の依お二十余人皆く馬車り
 多て連絡して相後ふさ終ふつとて列卒又百八十人精裝
 束と花中ふしてさへ猪鹿兎羊と着し隨伍れと相
 去るが見物の男女群集して其裾しれりつべうがに



琉球國王
還幸
の國

本勝氏ハ景石の内小在て其行旅と云々目と云々且
 國王の行跡と云々心中小思ひらるはけ國久しく兵革の患
 多くち平年久しくれば國王と云々上り者とも皆安んじ
 看て危きと云々是亡國の奏ひるり今り兵と加へるへ
 國中瓦のごくとけり人心中又思ひらるかくて行烈の
 列卒こゝく通し終り見物の男女も八方へ散敷く
 手に持ふるりれば武差者又得司小向ふて尚寧王の行
 跡と問れば得司元より勝氏ホと平商人よりと云ひ
 りればかゝる怪事バしてヤリるは今國王ハ元末酒を
 好みていて王城より六十里の外坤小向ふて干龍山と

りふありけ地ハ琉球を双ハ絶景少くハ海海隈と云々
 後ハ妙なる高山をびへ其景色等もそとがたふよハ城
 と築き山ハ半版小高臺と建仙壽臺と名づけて男女五
 百人員少年百余人とあきと國王ハ極びあこしく
 名と干龍宮と号しと云れば勝氏すけ地小りて目録せ
 んとて得司小案内と云々也干龍山小りてアる小方六
 里の城擲ふて千門万戸金珠と鑠め金銀の豊ハ天小映
 ト珊瑚の欄地小りてまこと長生殿不老堂といふ
 一勝氏アそとて頓小國の危きと嘆息し仰り又得司
 張ニよ白ひ我等の中國の者るれもいふとから花英と云々

子以け國よの由時何といふ人出既して國政と執行ひのよや
 張三が曰く右司馬韓陽の親方王晋といふ人專ら改革と
 行ひ多ふといひられぬ武苑も又問て曰くち勇何の大務も必
 ず多くゆんが佳人がさうとまきあふぞ強こが曰く 紹の俗布の
 按司林賓東風平此張專勇ハ齒山の張助幡吳谷の按
 司徐晟るの是等ハけ國を奴れ人るり勝氏が曰我の如く
 来りて諸侯ハ御名もさびとて國ふくくハ毎下る者
 云ふべし 那くばくさくさくさく張三が曰下るはどふ此
 國の人を知りてくハ宦官記録と云書とのめめハ是即ち
 諸宦人の爵録と記せし書るり勝氏はとて中申と大

ふよろとびけ書い何事ふれ外と同られ張三を養へて王城
 の書肆よハ竹やどでも是等ハ武苑の中申するり
 悦ハ即ち王城ふりてとて書林におのて宦官記録一
 部とゆとも終不要漢離ふりりるがけとれた船の造化
 半ふさささハ武苑中ふ漢田由壽あ計と合せあつて
 仍て危喜よ記へるハ亦ふ妻ハ國ふ止くまどはるび
 ゆらん危喜もも船の造化いすどとてびよりて我が内み
 大人先達てハ國ふくく妻ハ一族あけよしヤとせ
 めく安んさせく且け國の法仁んけやどもまきせく
 ゆと死ひられハ危喜ととて 按司陳文積ふ云上

王城小奏して上れ命とくけらるが執政九司馬王晋子速
小洋一乃れ武彦古大いふまきび加納系田布告三人等び
舟次入人武彦古とも船合九人一被れ舟小九のり三百石を
り来とつて生余れまのこもく要溪灘小のこ一ふく
汁とて羨おと終ふ琉球と波向して薩分れさしてゆり

忠久勝氏 拝元神一

去やとふ仁木武彦古勝氏ハ琉球の港とをるれ其月雲
舟ふくまらるが倭小天ハ乳腺朧とて風石をげし起り
舟とわたりゆりなれば三日日ひありとゆりふをどるく天
氣使勝して西南の微風海上平地のごくくるりし終ふ

船と出せし小意るく薩分れ文と浦お着舟次をる月と
けあると出逆ひをりゆ國とよろこび引て津中おうへ
彼國の振まるとるひらま一六勝氏逐一不言上し即ち彼
官官記録と取出し恭々し一呈上しなれば忠久古いふ
ほび用てそと人のあま

尚寧王 諱隆 字休斗 宣治元年即位

尚平公 諱申與 王子

尚始公 名仲林 同

文平陳夫人

文尚曹夫人

琉球ハ元朝鮮の属國
なるゆへ大宋の年号と
用ひ来りしはけ阿の自
して年号と云々多く
宋の製ふるふ

繪本統球 卷四

千里山

親方

左司馬

顏順

字子山

韓陽

親方

右司馬

王晉

字武亥

東風平

親方

校尉

張專

字武亥

北呂摩

按司

校尉

李先

字丁連

要溪灘

親方

太尉

陳文磧

穆陽

按司

校尉

趙殷

唐洲

按司

校尉

魏伯

齒出

按司

校尉

劉子達

吳谷

按司

樞密

徐晟

字德山

侶布

按司

樞密

林賓

字孟林

齒山

按司

驍夫師

張助幡

北谷

按司

校尉

皇甫忠

字武于

南嶋

按司

別駕

魯夷

古霸齒麻

按司

別駕

馬順

字公明

伽鬼呂麻

按司

從吏

阮達

寧陽

按司

校尉

張品

字潤芝

土茂平

按司

從吏

曹毛豐

川久谷

按司

從吏

王篇

江廣

按司

從吏

李成

虎竹

按司

驍夫郎

武達

字平成

繪本統球 卷四

十二

東羅 按司 驍夫郎

東嶋 按司 從事

長加嶋 按司 從事

雲松 按司 別駕

建麻山 按司 別駕

敦平 按司 從事

尚嶋 按司 從事

姫川

文房

杜貴

杜里

方士宰

夏木

孔洲

字雋山

右、外況、この輩、余て計、ふい、と、由、は、是、不、よ、り、を、思、い、を、
官の輩と、い、い、せ、り、を、忠、久、の、首、より、尾、まで、て、披、
見、て、大、い、に、悦、び、志、を、り、不、勝、氏、が、功、と、稱、し、か、く、は、ご、と、

彼國の根子と、い、い、く、相、し、よ、い、斤、村、も、あ、く、い、ご、り、を

さ、い、は、海、に、用、意、と、急、ぐ、べ、し、と、い、い、く、六、武、志、を、僅、ん、で

不、身、不、肖、の、某、か、る、大、任、と、業、を、し、る、西、月、身、よ、い、ま、り、

大、美、を、ふ、こ、び、と、い、い、く、凡、神、と、お、り、い、の、号、令、と、必、く、應、じ

と、い、は、ゆ、い、漢、の、高、祖、の、權、と、業、を、韓、信、と、大、元、師、お、持

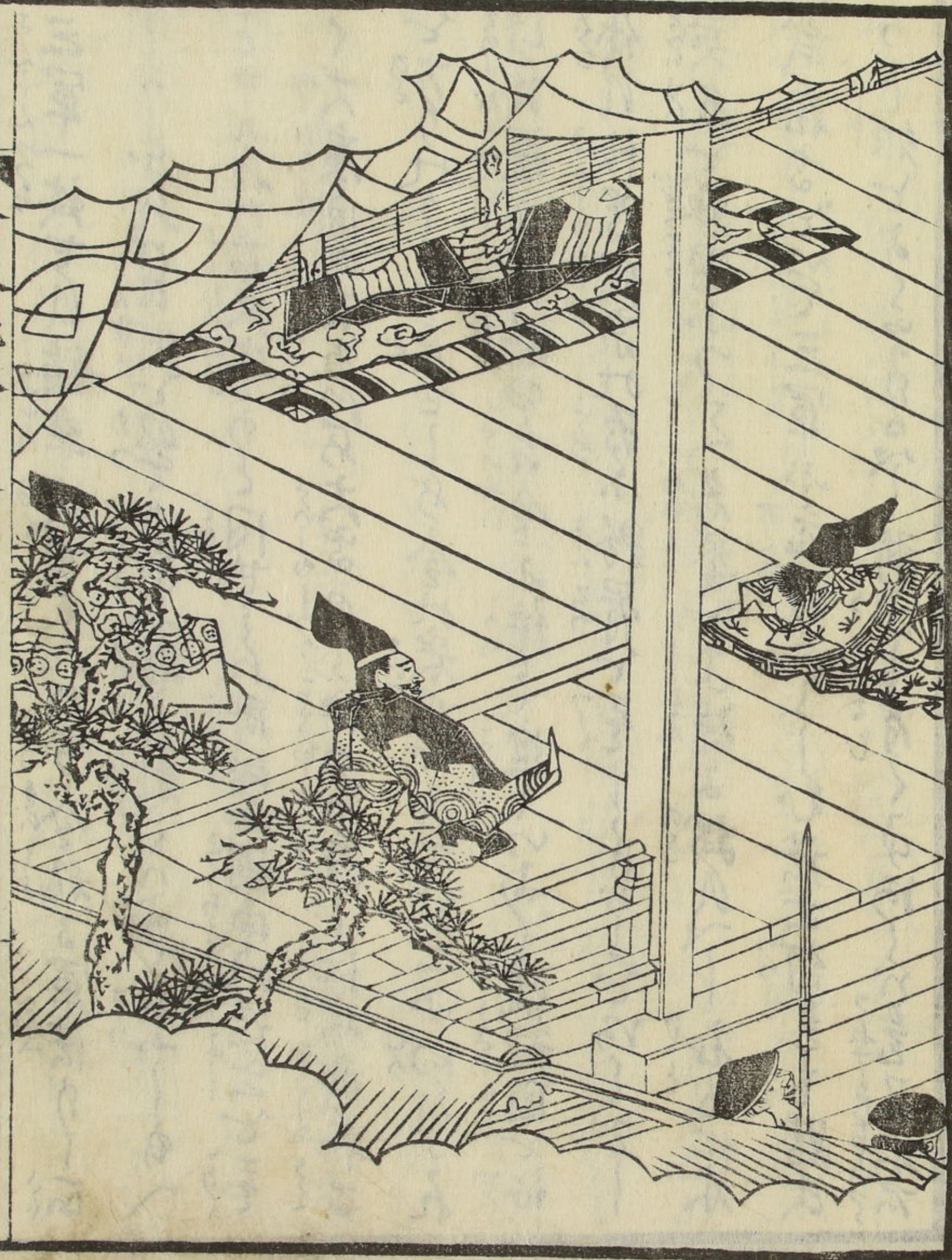
し、あ、り、君、今、某、と、い、く、軍、師、お、任、し、の、我、豈、力、と、い

し、て、功、を、建、ず、ん、ば、も、臣、が、命、お、後、ご、い

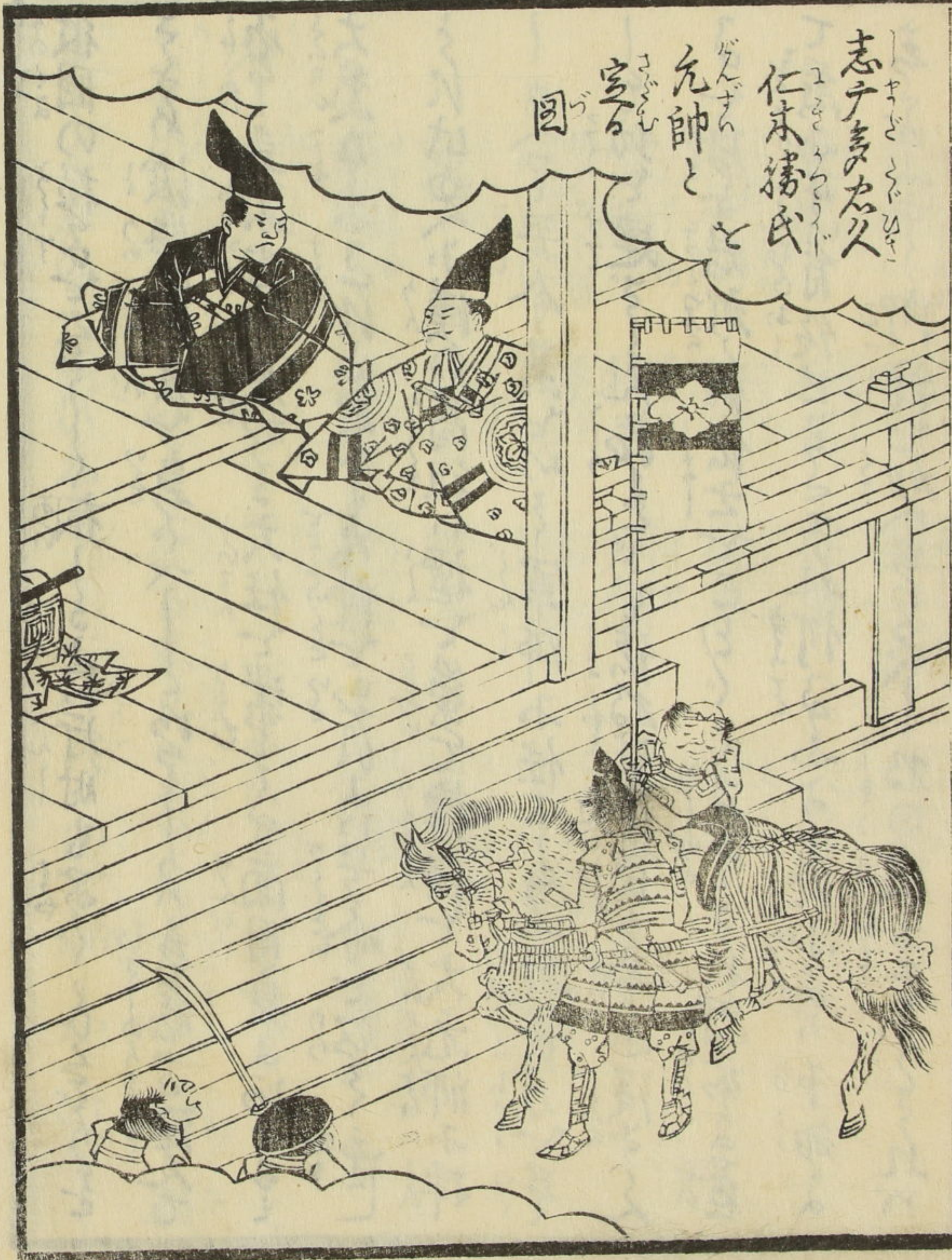
ふ、と、い、く、君、能、く、は、臣、と、い、い、く、く、る、に、い、は、れ、所、あ、る、置

て、處、ふ、予、有、後、せ、し、と、い、い、く、何、ふ、ふ、し、の、小、ま、り、下、知、よ

ま、り、中、の、御、後、と、加、へ、あ、り、と、い、い、く、お、の、威、を、り、い、い、れ、ば



志テ美久
仁末務氏
元帥と
定る
図



三軍一統せし諸軍伏せざれば号令乱る軍法の一
しうごんば臣何と忍びて敵を勝んぬくべきや
と申されば久寧の如き即ち小國中法を以て
く大廣間ふたりの大智自の申すに仁本武蔵
とありけりふ座せしめ令を采配とて法を以て
けは徳金武將の台命小信とて此の如く
依に汝等國家におも給骨とそしめざる
英名と外國ふつて人名譽とよほふ跡にべし
武蔵とて三軍小元帥とて法士何事も勝氏
が下知とよく申すべし

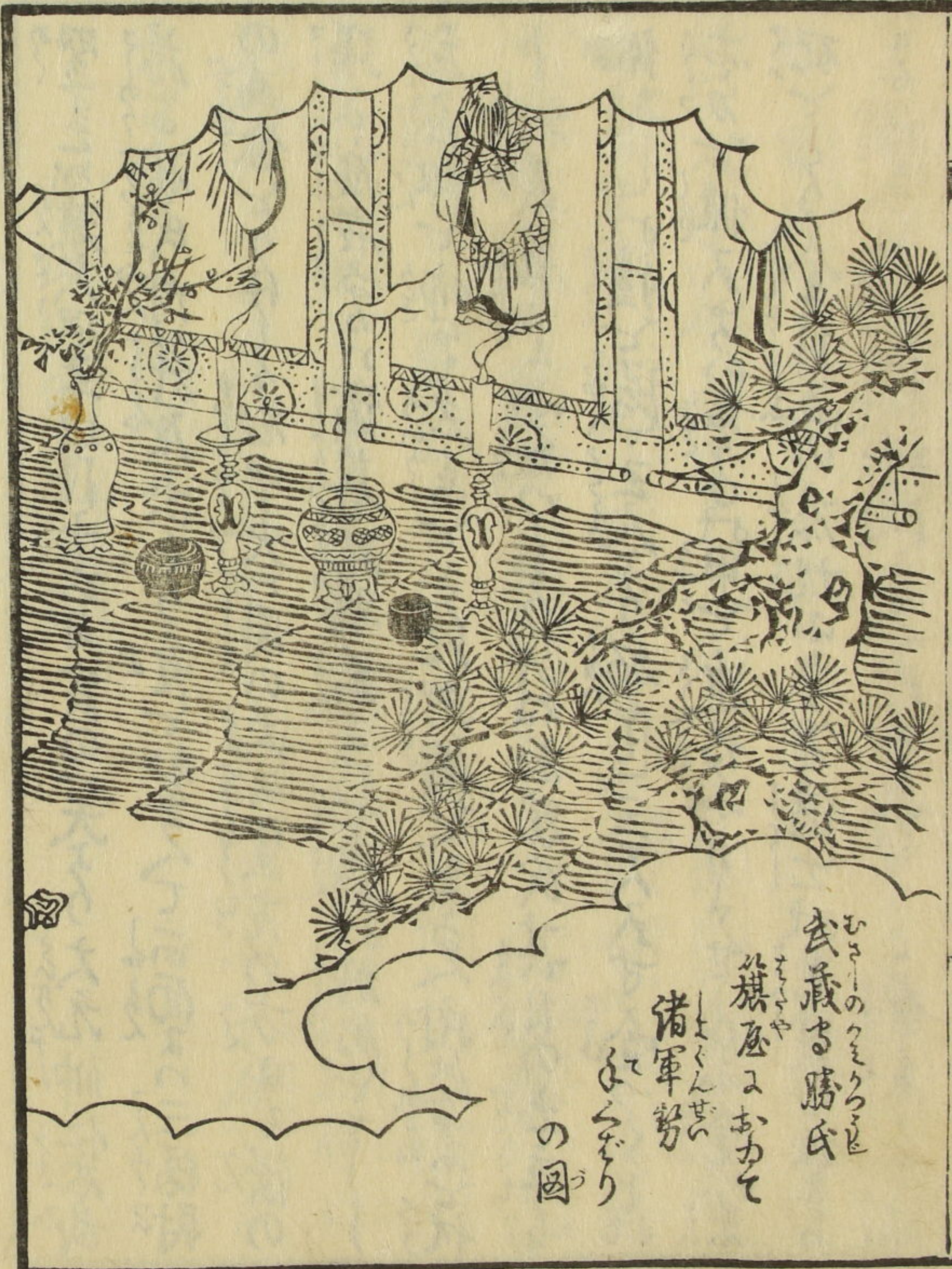
此の如く武蔵軍法おほくべしとて又武蔵を以て
汝とて武軍におもひ置んてあるも國家におも
たてそせよ表少くも法小遠よりのゆへに
法を以ておほく法小より殊哉せよ依に畏負の法は
とて親疎は別る号令さびしきべしとて自
帯せし金作りの力を以てしつて是を勝氏と
又彼金の采配と授くる因之勝氏置んて此を
能く金の采配とて押すべし中におもひて
君令れゆする不某とて小元帥の任とそら
て外國と征行者も主令れ置んて兵某が下知
おほく

繪本流末 卷四

多入軍令系親疎を以て法不遠を傳へべし其は刑殺を以て
 何り軍陣のうらむ武蔵を以ては之のいふや其が中亦
 別ち古事は命令するものとすべし彼國の案内すべし
 知るよひあり後述は用事とある人各々明日正卯の死
 時刻遠くは御旗屋へ系集とすべし是陣後陣の死
 とするべしと處重ふ中々もする有る由威儀事
 として武徳日比ふ十倍一善よ志ナ多おれ柱礎川
 一善よ志人といふふりかして法お唯々として命とす
 申す白のおのく近きなり

勝氏諸軍定陣烈

聖主は建久四年四月十六日宮の二天より大元帥仁本武
 蔵を勝氏所統居おしり我をかきて西面より三幅射
 の画像とりけりを中央の周の大元帥の方より漢の
 張子の右なるに備葛孔明あより七巻の旗のてし
 立宝剣と飾りて名あてしに御酒とそる人御使來と祝
 卜礼義嚴るる小死つろひぬを勝氏其日の生立と
 能おしに禮と送し主人より物作に三矢みす金づくまれ
 ちかを佩するをさるるに甲と近侍ありせしは金其來
 死ととり金符圖の麻机おうを備士は系集とれまら
 なる程りて法大將刻記とくびりれしと羣系して流

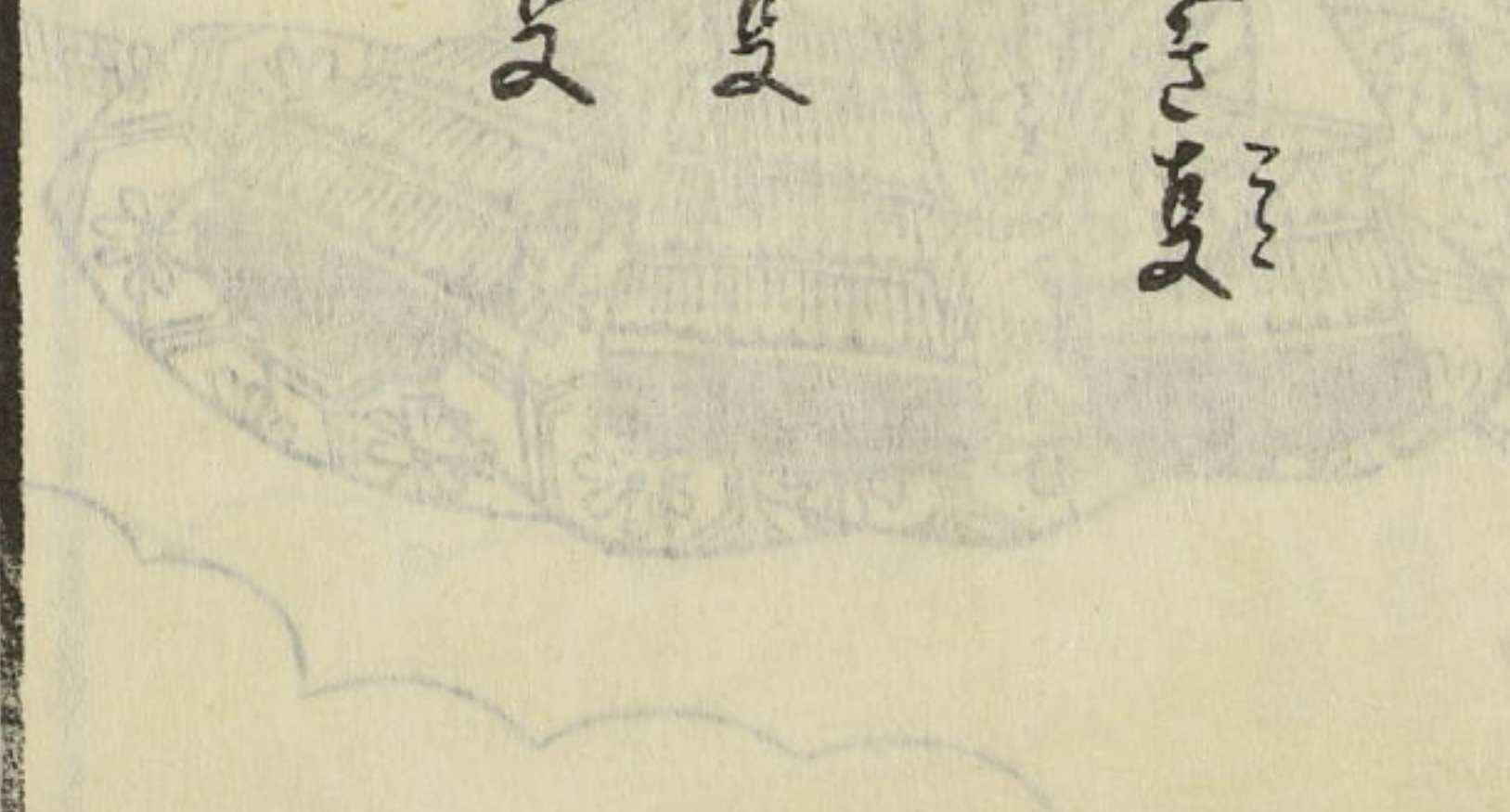


武蔵守勝氏
 旗屋におかて
 諸軍勢
 の國

此等は極式ふありて別れたる時小武蔵の法令を宣り
 本目録をたるといふ結算ふ命して法大納のまじり
 と定り且軍法と定むるを案く

軍中制禁目録

- 一 先陣二陣の備へ別して敵を討つるべし
- 一 先陣と敵を抜ぐけの夏
- 一 自分此勇と頼み味方と頼むる夏
- 一 敵國に入らば穢し不男女殺害の夏
- 一 民家に入らば乱妨宿籍の夏
- 一 進退うけ引相圖相遠の夏



- 一 味方此士卒の危急と頼むる夏
 - 一 士卒兵糧不足の夏
 - 一 手柄と争ひ急候と會て穢し不命と頼むる夏
- 討つる事

存る事かゝる相違万一遠変の輩有之ふおめては莫大
 の勲功ありとも却て罪科不可逃のあり

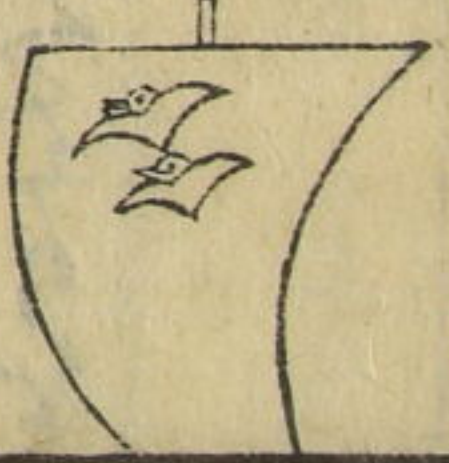
建久六年

十二月十六日

かくれどく中候一ありふして先陣二陣のふくまひを
 宣ひし事なり



先陣左りの一
種ヶ考大膳豊明
八万石



秩沓 二百挺
足煙 九百人

既入騎

内山十左衛門
井上武左衛門
戸川内記
市村左左衛門
山田八郎
井上玄龍
日比野要人
河田三十郎
大善平左衛門
川井新八

弓 三百張
足煙 九百人

既入騎

川井新八

槍 二百筋
足煙 六百人

既入騎

足田左衛門
宇野七左衛門

熊手 三百人

既入騎

古川又左衛門

考口 三百人

既入騎

熊沢國忠

左被 三十人

既入騎

高尾義左衛門

証士 三十人

既入騎

畠元元右衛門

兵糧奉行

三人

中沢又兵衛
山口久八

具足師 二十人

介候 卅十騎

馬奉り 二十人

陣中大元見 卅七人

往來書狀披見役

陣中使當 二十人

医師 二十人

十河公清右の

既一人 森屋治右の

既二騎 松浦右左の

既二人 中内十藏

既二人 天龍権右の

既二人 岩田友に

既一人 吉村右左の

既二人 川井元達

吉見周魯

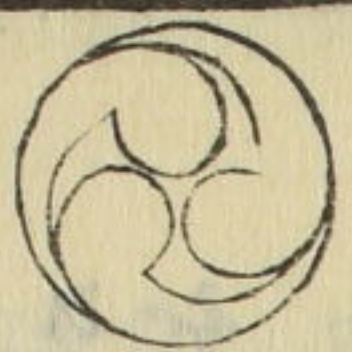
馬医 五人

既一騎 申野林右の

騎馬之兵 五万騎

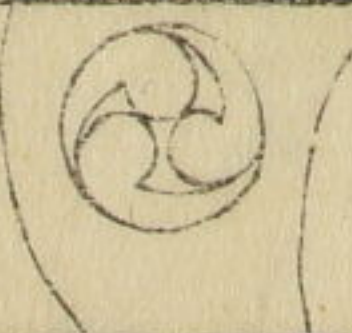
人救合一七

計万三百七十余騎



伊周院左兵衛尉忠棟

先陣右の一 既十方石



鉄砲

三百挺

既中

既九百人

既騎

岩城重隆

中村隼人

奥川重高

秋田金右衛門

武田政勝

小世川信織

粟田十之丞

弓

三百挺

既中

既九百人

既入

小世川信織

粟田十之丞

陰 三百筋 てがら 是燈 六百人 二筋 進 友 伴 八 甲 吉 去 傍

熊 小 士 卒 三百人 二筋 山 田 三 平 藤 野 小 左 右 衛 門

考 以 士 卒 三百人 二筋 津 原 隆 平 津 原 五 郎

兵 粮 奉 切 三人 毛 利 右 左 衛 門 出 陣 三 河 良

具 足 師 卦 十 人 二筋 小 山 次 左 衛 門 小 川 五 郎

存 候 卦 十 筋 一筋 志 賀 惣 左 衛 門

馬 奉 切 廿 人 二筋 岩 剛 右 左 衛 門 上 松 久 助

陣 中 火 元 見 由 裏 廿 人 二筋 阿 田 頼 母 益 井 万 助

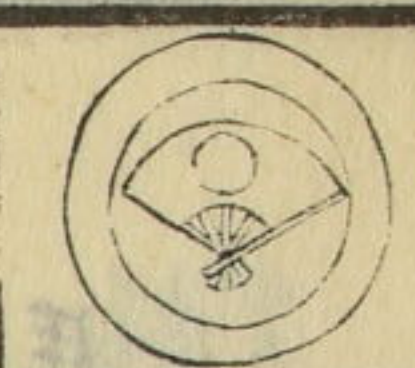
往 來 書 状 披 見 兼 祐 等 二 人 若 井 周 隆 村 松 長 次 右 衛 門

陣 中 使 者 廿 人 一筋 坂 越 十 平

医 師 廿 人 二筋 戸 田 一 學 申 孫 玄 孫

馬 医 又 人 一筋 有 馬 忠 義

騎 馬 的 兵 又 千 騎 人 救 合 一 七 九 千 余 騎 伊 周 院 籠 本 込 五 騎



二階半備前守忠道

右の才二陣 以六万石



矢砲 二百挺 六百石

市田みよ多束 上松三平 二階半十多束

弓 二百張 六百石

森田大左衛門 奈波又平 平井万花

陣中兄弟廿二人

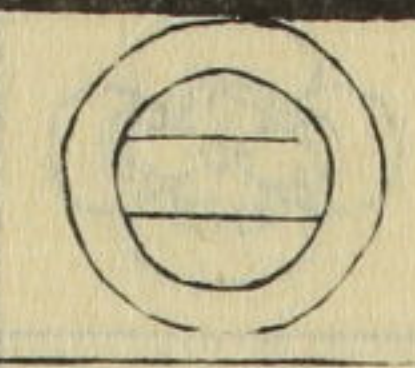
日向使兼十人

馬奉行三人

兵衛奉行三人

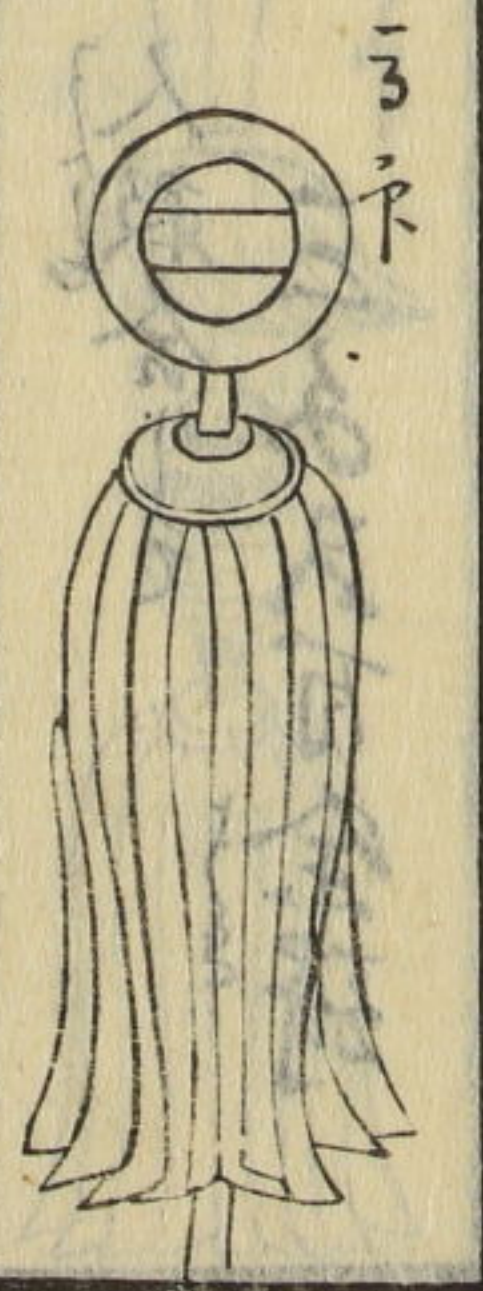
騎馬の才三万余人 二階半の旗本二万余人

人救合一七 五千余騎



依波見大藏助久秀

右の才二陣 以八万石



矢砲 計百挺 六百石

岩田傳六治 若川隼人 揚井中藏

弓 計百張 六百石

大穴次多束 井上金吾 児島八藏

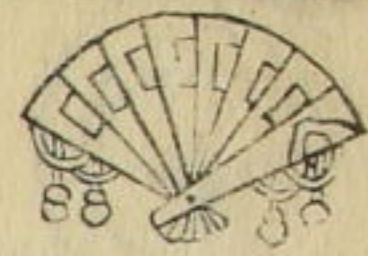
兵衛奉行三人

馬奉行三人

陣中使兼十人 日向見也り十五人 医師十五人

騎馬の才三万余人 依波見の旗本十五万人

人救合一七 日向又百餘騎



伊勢求馬長義
九才三陣 凡五万石



鉄炮 二百挺
弓 二百張
子習 六百
足軽 六百

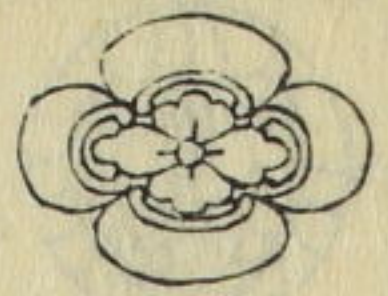
下村 七
大島 丹下
加藤 源次
平賀 教三
後藤 七五郎
大塚 又八

兵粮 在切三人

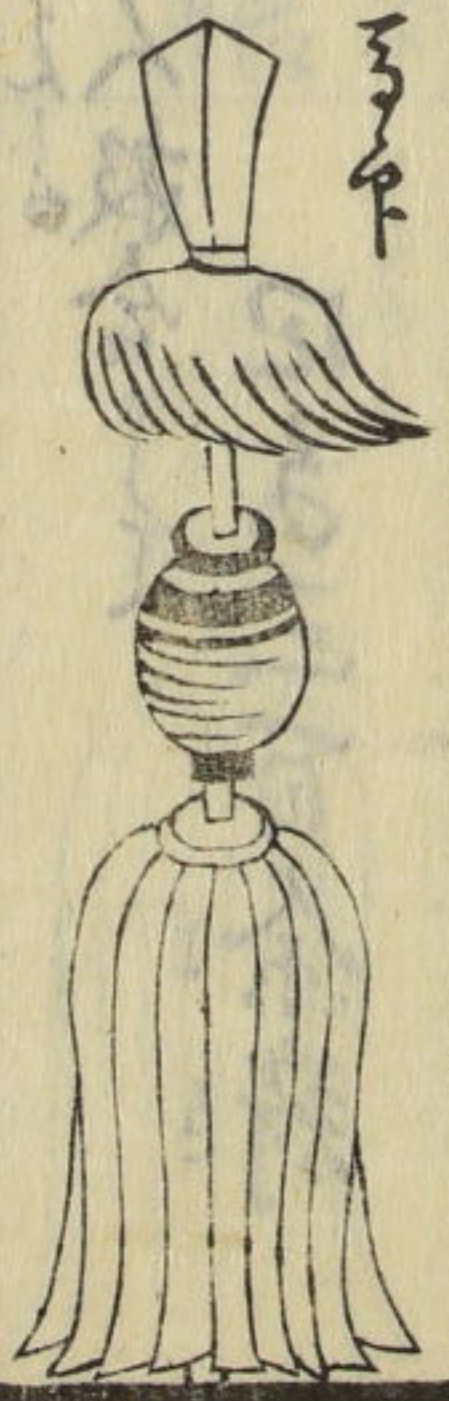
陣中 又ありり十人
具足師 廿人

騎言の兵 廿八
伊勢の旗本 十余人

人救合して
二万石又百餘騎



畑勘解由道房
九才三陣 凡五万石



鉄炮 二百挺
弓 二百張
子習 六百
足軽 六百

平田 権平
津美 勇人
寺地 頼貞
八木 宗七

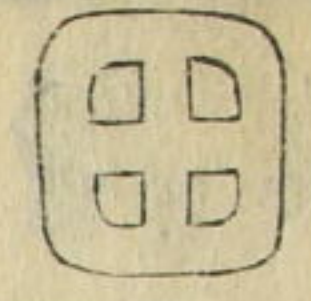
兵粮 在切三人

陣中 見ありり八人

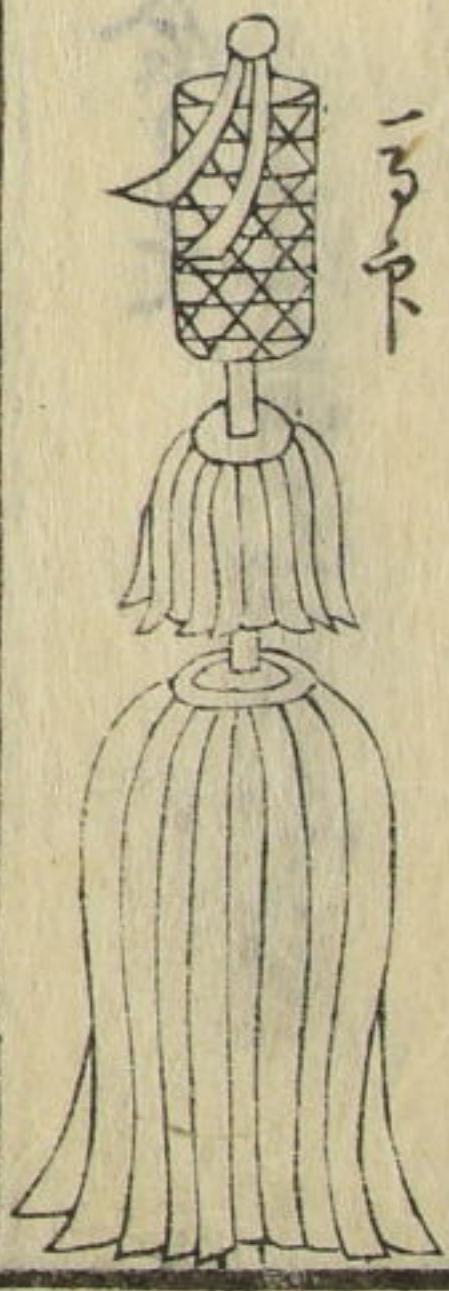
具足師 廿人
醫師 十人

騎馬 廿八
人救合して
三万石又百餘騎

畑の旗本 八百人



志摩多道江光直
左中陣 八万に多



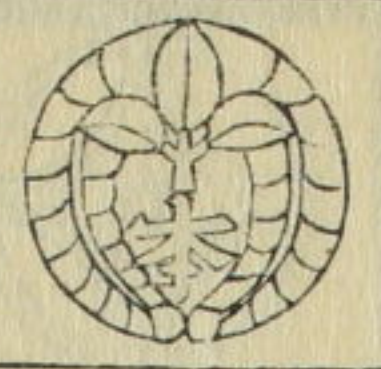
鉄砲 二百挺
弓 二百張
兵船 五十人
具足師 三人

弓 二百張
兵船 五十人
具足師 三人

陣中見あり十二人 醫師 十人

騎馬 計八百人
志之義兵 旗本 千八百人

人救合して
二百三百余騎



江本三府左衛門重信
右中陣 八万に多

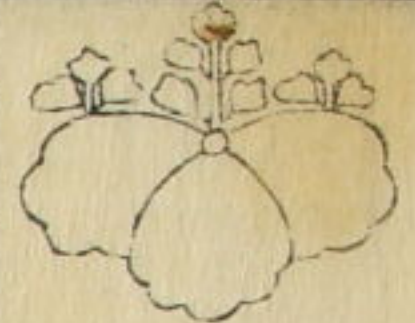


鉄砲 百挺
弓 百張
兵船 五十人
具足師 三人

弓 百張
兵船 五十人
具足師 三人

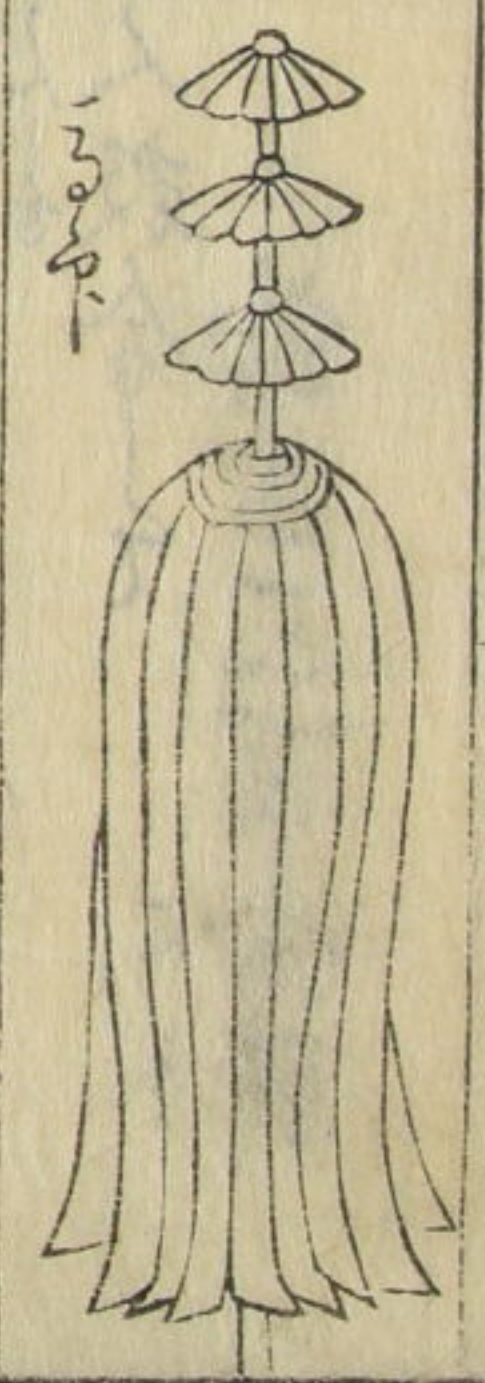
陣中見あり八人

騎馬 三百騎
人救合して
計三百余騎



松尾軍人正勝邦

右方五陣 以七万五



疾砲 卦百挺 是種 六百人

政三人 津川多仲 山北 榎原 安藤 甚入良

弓 卦百張 是種 六百人

政三人 橋本 志保 八 本川 辰 山井

鐵 百筋 兵糧 是種 六百人

具足解 三人

陣中 又 是 十 数 人 医 解 十 人

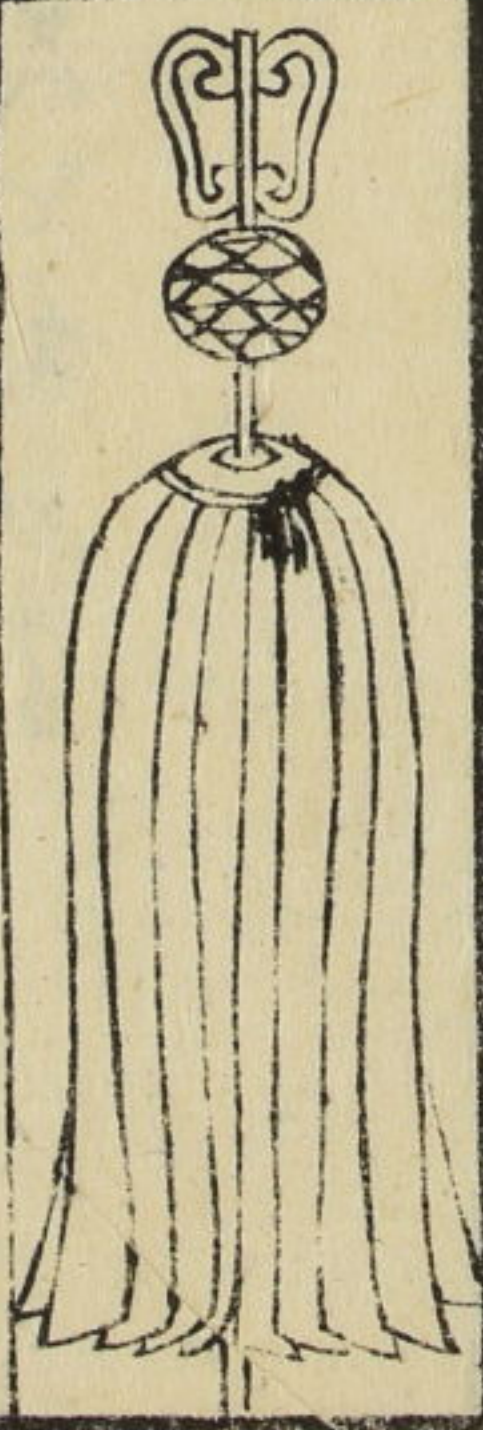
騎 三 卦 八 百 人 人 救 合 一 十

松尾の 旗 本 千 五 百 人 日 亦 三 百 余 騎



秋次左の尉之常

右方五陣 以十万人



換炮 卦百挺 是種 六百人

政三人 町野 又 三 好 三 左 右 田 亦 山 森 内

弓 卦百張 是種 六百人

政三人 志 賀 平 上 系 山 中 傳 左 右

鐵 卦百筋 兵糧 是種 六百人 陣中 又 是 十 数 人

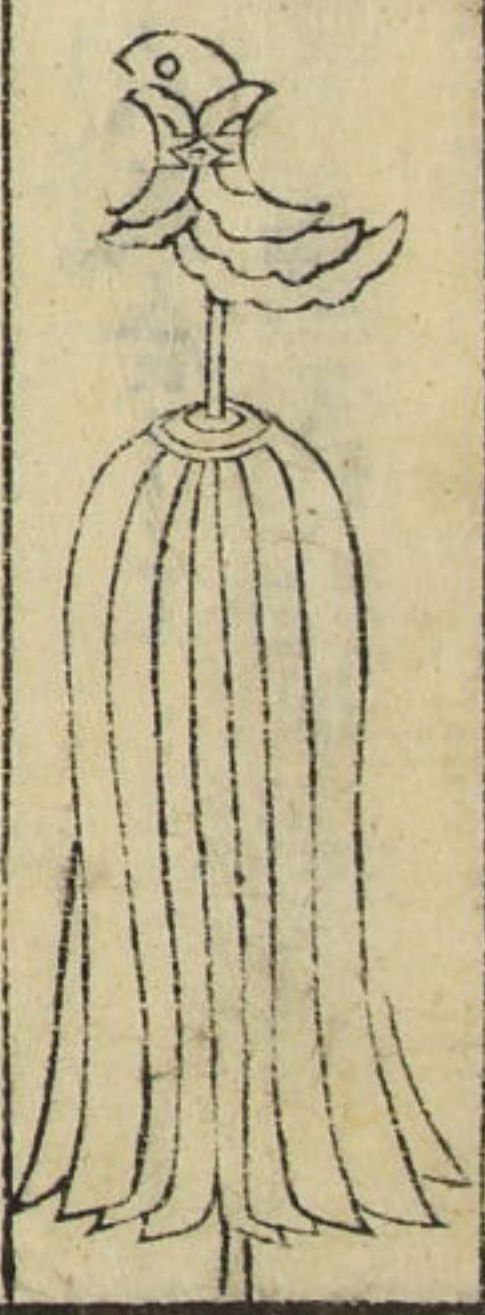
具足解 八人 医 解 十 八 人

騎 三 卦 八 百 人 人 救 合 一 十 日 亦 八 百 余 騎



佐野常力政賢

たり方六陣以七方二ある百



鉄砲 百挺 二百廿人

既二入 横田 嘉典
岩瀬 利右衛門

弓 百張 二百人

既二入 佐藤 孫次郎
佐野 辰三郎

陣中 足高り 七人

既二入 具良 師三郎
醫師 十二人

陣中 足高り 七人

既二入 人教合して
三亦武百騎

かくれごとく 左右十二段とさる人とからるる

繪本琉球軍記卷之四終

